



陸の水

≡No.9≡

日本陸水学会東海支部会
ニュースレター 2000年5月

発行：日本陸水学会東海支部会
住所：〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学大気水圏科学研究所内
Tel. 052-789-3489, Fax. 052-789-3436

ごあいさつ

日本陸水学会東海支部会第1期を終えて

今回、日本陸水学会東海支部部会長として、2期目を、仰せつかりました。私以外の役員はすべて、新たに改選され、非常に若々しく、行動的な会員であります。どうか今まで通りによろしく、支部会を盛り立ててください。

1期目で築いた、支部会の目的に添い、一人でも多くの会員が、陸水学をより身近のものにするため、市民参加を促し、これからも新しい、企画をするつもりです。幸いにも、1999年には、陸水学観測100年を記念し、市民と共同して、木曾三川を対象とした透視度と水温の一斉測定を無事に終了することが出来ました。この経験を生かし、各会員が、東海にある、陸水学的な興味や特徴ある地域を紹介する計画などを立てております。

これからも、会員の皆様には、日頃、大変お忙しい各自の仕事の中から、少しでも、時間をさいて、東海陸水学会の活動にご参加くださいますよう、お願いします。

第2回日本陸水学会東海支部会の研究発表会では、岐阜県の山内克典岐阜大学教授の

ご努力で、岐阜県婦人会館で開催され、研究発表、総会、懇親会と和やかな雰囲気の中で、無事終了し、来年その再会を確認しました。

地球環境問題は、身近な市民生活の中にも、確実に入り込んできていますが、陸水学的な問題については、水質汚濁・富栄養化などの形で、社会関心として知られております。しかし、この問題はどちらかという過去の問題としてとらえがちで、市民の関心は水に関しては環境ホルモン・ダイオキシン等の特殊な物質にあるようです。しかし、かつて、富栄養化の研究が、N・Pや微量元素の役割について、多くの研究成果が必要としたように、これらの問題解決には、陸水学的な立場からの考察（物質循環など）が必要であると考えられます。今後も、陸水学的観点からの基礎的研究の積み重ねは必要です。

会員の皆様のさらなる行動で、東海の陸水学を盛り立てくださるようお願いいたします。

平成12年4月

東海支部会会長 八木明彦



日本陸水学会東海支部会

第2回研究発表会および第3回総会開催

去る3月25日、岐阜市内の岐阜県婦人会館において本支部会の第2回研究発表会および第3回総会が開催されました。今年は研究発表会のアナウンスが遅れて1月になり、発表件数が揃うかどうか危惧されましたが、昨年同様15件となりました。講演要旨集も印刷がギリギリ前日に出来上り、発表者が会場に来て初めて発表順序がわかるという事態で、会員の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。ひとえに庶務幹事の怠慢と深く反省し、この場でお詫び申し上げます。

[研究発表会]

発表内容は昨年もそうでしたが今年も多彩でした。数値フィルターを用いて河川流量と水質の関係を解析する陸水物理から溜池プランクトンの種組成や河川付着藻の一次生産、湖沼のメタン生成や鉄・マンガン酸化還元菌などに関するいわゆる陸水生物・化学的研究、安定同位体を用いる湖沼生態系の解析という新しい陸水研究法の紹介などの他、河口堰関連の研究として長良川河口堰モニタリングデータの解析、河口堰運用後のカゲロウ大発生現象や長良川と比較した揖斐川のアユの降下生態などが注目されました。また、通常の陸水学会では聞かれない発表としてカゲロウ幼虫の形態分類法や沿道における車の排気ガスの拡散・変質過程に関する解析研究の報告がありました。学部の学生、大学院生から大学教員、自治体職員や

定年退職された方まで年齢・職種も多彩な中で活発な討論が行なわれました。

[総会]

総会では、昨年総会以後の活動報告(ニュースレター6~8号発行、木曾三川調査の実施と結果のまとめ)、決算報告(p.4参照)および監査報告がなされ、それぞれ承認されました。また、2000年度の活動方針(ニュースの継続発行と新規事業の取り組み:東海地方の陸水探訪と陸水調査活動助成)について提案され(p.3参照)予算案(p.4)とともに承認されました。

役員の任期は2年となっているために、ニュースレターで自薦・他薦を募りましたが応募者がなく、幹事会から依頼した以下の方々に引き継ぐことが提案されて、承認されました。

会長: 八木 明彦 (留任: 名古屋女子大学)

庶務幹事: 佐野 方昂 (愛知県環境調査センター)

会計幹事: 岡 一郎 (南山高校女子部)

広報幹事: 糟谷 真宏 (愛知県農業水産部)

事業幹事: 伊佐治 知明 (名古屋市水道局)

地区幹事: 山内 克典 (岐阜大学教育学部)

田中正明 (四日市大学環境情報学部)

[懇親会およびエクスカージョン]

総会のあと18名の参加で懇親会が行なわれ、うち9名が宿泊し2次会をもち、翌朝は岐阜県保健環境研究所を見学して昼前に解散しました。(寺井久慈)



研究助成および陸水探訪のご案内

Ⅱ 陸水調査研究助成 Ⅱ

陸水学会東海支部では、新たに「研究助成制度」をスタートさせることにしました。川や湖を対象として調査や保護活動を企画しているグループを会として支援し、支部の明日を担う若手を育成することを目的としたものです。

助成の内容

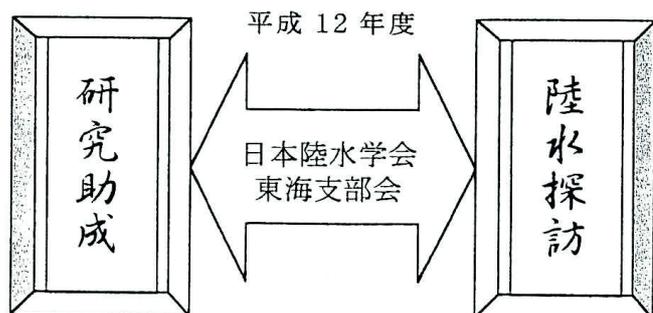
対象： 陸水学に興味を持ち具体的な研究を計画している個人またはグループ。支部会員外も応募可。小学生から大学生までの若い人、肉体的に年をとっていても、若い精神を持ちつづけている人の応募を特に歓迎します。

助成額： 50,000 円 / 1 件

採用件数： 1～2 件 / 年

審査の基準：東海支部の会長が選んだ審査委員会で採否を決定します。今までの実績よりも、企画の面白さやユニークさをより重視します。

助成制度の細部については、新しい支部幹事会で決定します。詳細については下記連絡先までお問い合わせください。また、会員の方には、この制度を身近な研究グループにご紹介いただくようお願いいたします。



Ⅱ 東海地域の陸水探訪 Ⅱ

陸水学会東海支部では、平成 12 年度事業として、「東海地域の陸水探訪」を企画しています。東海地方のいろいろな陸水を知ること、そして調査を通じて会員相互の交流を深めることを目的としたものです。また、いろいろな分野の参加者の研究手法を学ぶよい機会にもなるかと考えます。

参加者は会員を原則としますが、余裕がある場合は、会員の家族、指導する生徒、また会員外も可とします。調査場所としては、今のところ次のような場所を案として考えています。

- 「三河高原の湿原」 (愛知県作手村)
- 「石灰岩地帯の陸水」 (愛知県豊橋市)
- 「幻の湖の謎を探る」 (静岡県水窪町)
- 「新しい湖の誕生」 (長野県王滝村)
- 「水源から伊勢湾へ——都市を経た水の流れ」
(木曾川上流より伊勢湾まで)
- 「スキー場の陸水学」 (岐阜県高鷲村)

具体的な調査場所や日程等は、参加希望者で話し合いながら決めていきます。この企画に興味のある方、調査場所の提案のある方、下記連絡先までご連絡下さるようお願いいたします。

[連絡先]

電話： 052-852-9739 村上

Eメール： IZE00424@nifty.ne.jp 伊佐治



陸水学会東海支部会 1999 年度会計報告

東海支部会の 1999 年度の会計報告が、3 月 25 日の第三回総会においてなされ、1999 年度決算、2000 年度予算ともに承認されました。

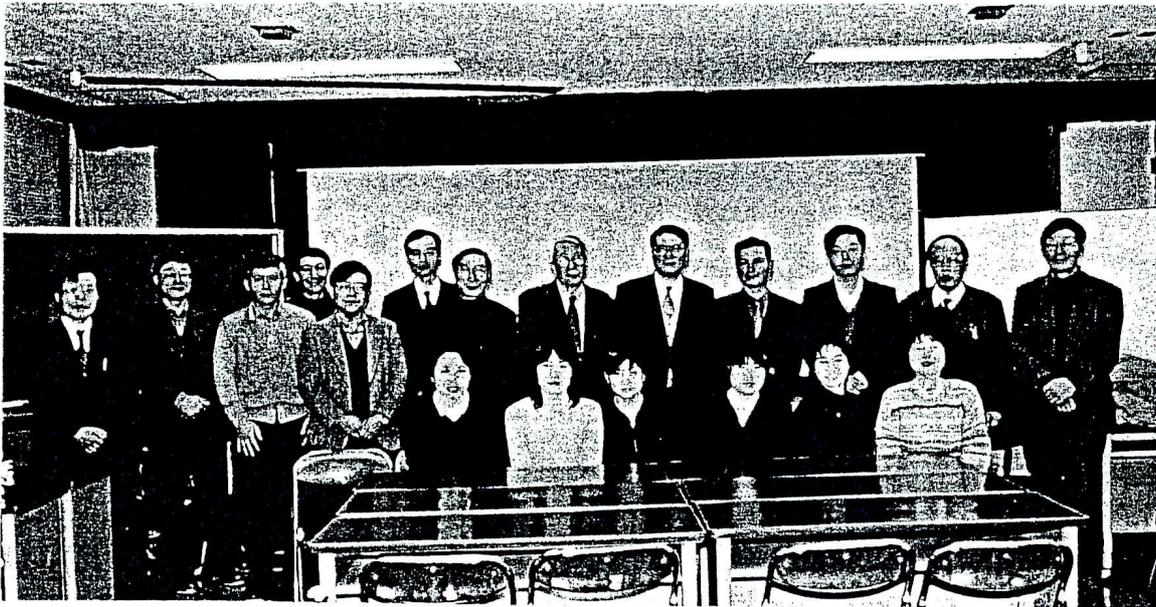
一般会計

〔収入〕			
費目	1999年度予算	1999年度決算	2000年度予算
前年度繰り越し金	271,589	271,589	409,818
会費収入	180,000	168,000	180,000
雑収入			0
寄付金		62,070	0
利息		228	0
総計	451,589	501,887	589,818

〔支出〕			
費目	1999年度予算	1999年度決算	2000年度予算
郵送料	60,000	36,410	60,000
ニュースレター	30,000	2,940	30,000
要旨印刷費	60,000	33,600	60,000
雑費	30,000	3,368	30,000
普及活動費			100,000
予備費	271,589	15,751	309,818
総計	451,589	92,069	589,818
	繰り越し金	409,818	

〔資産〕	
郵便局口座	190,758
郵便振替口座	198,600
銀行口座	9,099
現金	11,361
合計	409,818

なお、2000 年度予算のうち、普及活動費は、研究助成として、年間 2 件程度を目途に設けられたものです。詳細は、本号 3 頁をご覧ください。



総会のあとの懇親会にて